

防犯ブザー

防犯ブザーの急速な普及

子どもを犯罪から守る防犯グッズの中で、手軽に利用できるのが防犯ブザーである。緊急時にストラップを引くなどの簡単な操作で、周囲に大きな音で異常を知らせることができ、ブザーの音で犯罪者がひるんだ隙に逃げることもできる。本体価格は1000円前後、購入後のコストは電池代だけなので、経済的である。

最近では、通学路などでの安全を考えて親が子に防犯ブザーを持たせるケースが増えている。また、学校側が児童生徒に配布し、通学路での安全確保を図る取り組みも増加している。

防犯ブザーは種類によって使い方が異なり、身につけていても、肝心なときにうまく作動しないのでは意味がない。したがって、次の点を確認して防犯ブザーの使い方を覚えておくこと。

- ① 電池が切れていないか。
- ② どうしたら鳴るのか、どうやって止めるのか。
- ③ 実際の音量はどのくらいなのか。

性能基準

警察庁、文部科学省、経済産業省、(財)全国防犯協会連合会、(社)日本PTA全国協議会、(社)電池工業会は、防犯ブザーの音が誰にでもわかり、より効果的な性能にするための検討を重ね、平成18年に防犯ブザーの性能基準をまとめた。

◆防犯ブザーの性能基準

- ・音色 高い周波数と低い周波数をくり返す変動周期をもつ音色。
- ・音量 1m離れたところで音量は85デシベル(電車のガード下の騒音より大きい音)以上の音量が測定されること。
- ・連続吹鳴時間 連続して鳴らしたとき、表示音量の90%以上の音量が20分間以上保てること。
- ・操作性 引きひもや押しボタン等、児童が容易に操作できること。

(財)全国防犯協会連合会では、製造業者などから申請があった場合に、性能基準に適合していることが確認された製品については、推奨マークを付与する制度を設け、推奨商品を下記のホームページで紹介している。

サンプル音

防犯ブザーを有効に活用して、子どもを犯罪から守るには、周囲の大人が防犯ブザーの音に気づくことが重要である。前記の性能基準に適合する防犯ブザーのサンプル音は、(財)全国防犯協会連合会、警察庁のホームページで聞くことができる。防犯ブザーの音がどのような音かを確認、助けを求める子どもをキャッチできるようにしておくことが大切である。

(財)全国防犯協会連合会ホームページ

<http://www.bohan.or.jp/>

警察庁ホームページ

<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki67/>

「まもるっち」

「まもるっち」とは、東京都品川区が区内の小学生に無料で貸与しているGPS機能付きの防犯ブザーで、品川区独自の防犯システム「近隣セキュリティシステム」の子どもが携帯する子機(愛称)である。子どもが身の危険を感じたときに通報ピンをぬくと、大きな音と共に子機に登録された子どもの情報(学年、性別)と発報した位置の地図が、区役所のセンターシステムや事前に登録した協力員の電話または携帯電話に流れる。情報を受けとった協力員は、現地に駆けつけ、子どもを事件から守ろうというシステム。協力員は、区内に13,000人いる。

「まもるっち」のストラップを交通安全に役立てようと、リフレター(反射板)付きの新しいストラップを配布する学校も出始めている。下校時間が暗くなる季節に、ドライバーからの視認性を高め、子どもを交通事故から守ろうという一石二鳥の取り組みである。

(品川区ホームページより)